



平成 27 年 7 月 吉日

—「アートアクセス 音まち千住の縁」新プロジェクト始動—
「千住・縁レジデンス」 オープンコンペティション ご取材のお願い
＜2015 年 8 月 8 日(土)開催＞

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事業にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび 5 年目を迎えた「音まち」では、千住を舞台に作品制作をおこなう若手アーティストを迎える新企画「千住・縁レジデンス」を開始いたしました。現代のアートシーンの第一線で活躍するアーティストやキュレーター、ライターらの指名により、5 人の若手アーティストが 8 月 8 日(土)、千住に集結いたします。オープンコンペティション当日は、事前にまち歩きやリサーチを進めてきた若手アーティストが、秋からの実現を懸けて、各自が練った千住ならではのプランをプレゼンテーションします。

まちなかで得たさまざまな出会い(縁)に刺激を受けた面々から、どんな熱いアイデアが飛び出すのか。ゲスト審査員として迎える専門家や「音まち」を見守ってくださる地域審査員、そして会場のみなさまとともに、秋から千住に招聘するアーティストを 1 名、公開審査によって当日選出いたします。

つきましては、本事業をぜひとも貴媒体にてお取り扱いいただきたく、当日のご取材を賜りますようお願い申し上げます。今後とも「音まち」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【開催概要】

事業名:「千住・縁レジデンス」 オープンコンペティション

日時:平成 27 年 8 月 8 日(土) 14:30 開始(14:00 開場 / 18:00 頃終了予定)

会場:安養院(足立区千住 5-17-9) ※北千住駅(西口)から徒歩約 10 分

料金:入場無料

定員:先着 50 名(事前申込可) ※事前予約が定員に達しない場合は当日受付を実施[実施の場合は公式サイトにて告知]

主催:東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京藝術大学音楽学部、

特定非営利活動法人音まち計画、足立区

助成:公益財団法人朝日新聞文化財団 協力:安養院

【参加アーティスト】 ※五十音順

久保ガエタン(アーティスト) / 推薦者:難波祐子(キュレーター)

下司尚実(ダンサー・振付家・演出家) / 推薦者:近藤良平(振付家・ダンサー)

友政麻理子(美術家) / 推薦者:白坂ゆり(アートライター)

中川裕貴(音楽家・演奏家) / 推薦者:アサダワタル(文筆家・ミュージシャン)

橋本知久(音楽家) / 推薦者:野村 誠(音楽家)

【審査員】

畠中 実(NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員)

日沼禎子(女子美術大学准教授) ほか

本事業に関するお問い合わせ

「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事務局(担当:長尾)

〒120-0026 東京都足立区千住旭町 22-9-201 音う風屋

Tel: 03-6806-1740 (13~18 時、火曜・木曜除く)

Mail: info@aaa-senju.com Web: http://aaa-senju.com

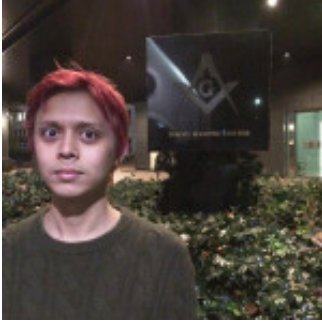
「千住・縁レジデンス」とは

千住を舞台に活動する若手アーティストを迎える企画です。夏に指名制のオープンコンペティションで 1 名を選出。秋から本格的に通い、〈場〉や〈人〉とのリアルなコミュニケーション＝縁を深め、冬にはプロジェクトの成果や作品を発表予定です。千住ならではの新たな文化創造・発信のきっかけになることをめざします。

アートアクセスあだち 音まち千住の縁(通称「音まち」)とは

アートを通じた新たなコミュニケーション(縁)を生み出すことをめざす市民参加型のアートプロジェクトです。足立区千住地域を中心に、市民とアーティストが協働して、「音」をテーマにしたまちなかライブ、ワークショップ、トークイベントなどを展開します。

【参加アーティスト プロフィール / 推薦者のコメント】



■久保ガエタン | くぼ がえたん (アーティスト)

1988年東京生まれ。2011年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。2013年同大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了。近年の主な個展に「Madness, Civilisation and I」「Hysterical Complex」(児玉画廊、2012、2013年)、グループ展に「群馬青年ビエンナーレ」(群馬県立近代美術館2012、2015年)など。2014年、国際交流基金 若手アーティスト米国派遣事業においてニューヨークとロサンゼルスに滞在し、ニューヨークのジャパン・ソサエティで発表などを行った。

現在は東京、茨城を拠点に活動。取手のスタジオにはよく地元の小学生が遊びに来ていて、アドバイスをくれたり制作に介入をすることも多々ある。

推薦者：難波祐子 | なんば さちこ (キュレーター)

千住でのレジデンスを通して作家に秘められた強烈なイマジネーションの力が引き出され、思いがけない形で千住の音風景が立ち現れてくるような作品が生まれることを期待します。

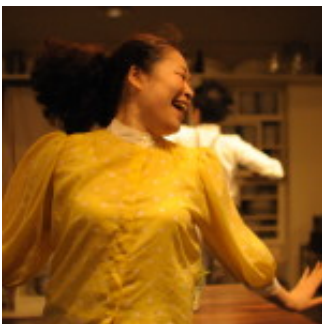


photo by Otsuka buu

■下司尚実 | しもつかさ なおみ (ダンサー・振付家・演出家)

小野寺修二のもとで演出助手を務めたのち、NODA・MAP『パイパー』に出演。野田秀樹と近藤良平に同時に出会い、おのずと芝居とダンスを行き来する独自の創作スタイルが芽生える。2010年自由形ユニット「泥棒対策ライト」を立ち上げ、見た人の“生活のビタミン”になれるような作品をモットーに、役者とダンサーが混在するおもちゃ箱のような活動を精力的に続けている。

出演作はNODA・MAP『エッグ』、近藤良平『山羊ボー走』、康本雅子『絶交わる子、ポンッ』、ハナレグミのライブなど。振付としては日本昔ばなしのダンス『いっすんぼうし』、CM『ジョンソンヴィル』、野田秀樹演出オペラ『フィガロの結婚 〜庭師は見た！〜』等がある。シャイガール。

推薦者：近藤良平 | こんどう りょうへい（振付家・ダンサー）

今回は、下司氏を推薦します。

彼女の取り組み方は、独特である。演劇のこと、ダンス的なこと、そんな要素をいとも簡単に乗り越えていく。さらには、ひととの交流が、親身であり、彼女の風貌も含め、みなに愛される方である。

きっと、新たな出会いと地域からの新しい発信が、見つかっていくと予感がする。のだ。



■ **友政麻理子 | ともまさ まりこ**（美術家）

1981年埼玉県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。コミュニケーション過程に現れる典型的な「型」に焦点を当て作品制作やワークショップを行う。近年は父と娘の食事中的の会話や、やまびこや輪踊りのような風習をモチーフに、他者との相互理解の成り立ちを探る。

主な展覧会に「近づきすぎてはいけない -Have a meal with Father-」TALION GALLERY（東京／2015）、「Between art and science 2014」IRFAK OASIS（ブルキナファソ）、ナポリ科学博物館（イタリア）、「與父親共餐」Treasure Hill, Creative Lounge（台北／2013）、「クリテリオム85 友政麻理子展 "waodori"」水戸芸術館（茨城／2012）などがある。2015年7月「水と土の芸術祭」（新潟）に出品予定。あわせて、市民と「潟の夢映画祭」プロジェクトに取り組んでいる。 <http://www.tomomasa.info/>

推薦者：白坂ゆり | しらさか ゆり（アトライター）

千住には、小唄、映画、演芸館など見えなくなった文化がいろいろあります。映像には映らない「見えないもの」を映そうとする友政さんであれば、見えない「縁」が見えるような何かを仕掛けてくれると思います。



photo by OMOTE Nobutada

■ **中川裕貴 | なかがわ ゆうき**（音楽家・演奏家）

1986年生まれ。京都市在住。楽器（主にチェロ）を持って、作曲・演奏・演出を行う。バンド「中川裕貴、バンド」「swimm」などに参加。また「烏丸ストロークロック」「わっしょいハウス」などの劇団／劇作家への舞台音楽提供・演奏、ダンサー／美術家との共同製作・パフォーマンスをこれまでいくつか行う。

自主企画として、コンサートシリーズ「o/t/c」、セルフスタディー的イベント「and play=enso on」を主宰。演奏活動とは別に、フィールドレコーディングや「音楽を鑑賞すること」そのものをテーマとしたワークショップも数回実施している。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了（専門は音響心理学／聴覚）。

推薦者：アサダワタル | あさだ わたる（文筆家・ミュージシャン）

「地域の日常」といった文脈に寄り添いながら、そこに広義の「音楽」を絡められるタイプのミュージシャン。彼自身は、決してコミュニティに深く関わる活動をしてきたわけではないけど、活動の履歴を見ていると何かしら起こしてくれそうな気がします。



■ 橋本知久 | はしもと ともひさ（音楽家）

名古屋出身。オランダにてハーグ王立音楽院で作曲を、コダーツ・ロッテルダムでダンスを研究。作曲・振付・演出を統合する「時間芸術家」という肩書を掲げて活動を展開。作品は日本、オランダをはじめ、アメリカやヨーロッパ各地で上演、放送されている。主な作品に中世と現代の葛城山を舞台にしたオペラ『胡蝶の夢』の他、100人で石を打つ鎮魂の儀式『イシノオト』（あいちトリエンナーレ2013）、倉庫内でヒト・モノ・コトが多層的に交差する市場『キャナル・マルクト・フェスタ』など参加型プロジェクトも行う。

最近では鍵盤ハーモニカ奏者TOPAとしての活動も開始。2011-2014年愛知県立芸術大学非常勤講師。

推薦者：野村 誠 | のむら まこと（音楽家）

時間にも空間にも文学にも身体にも意識が向くオープン作曲家。演奏もダンスもやっちゃう勇み足系。他人の話もよく聞かし、柔軟に発想する。人格よし。捕らえ所がない器用で可能性を秘めたマルチタレント。応援すれば応えるだけの潜在能力あり！